

小林 貢

Kobayashi Mitsugi

—ガラスに込めた想い—

遺作展



『空へ』(1989頃)

8月17日[日]～24日[日] 10:00～17:00 入場無料

パティオ池鯉鮒(知立市文化会館) 2F ギャラリー ※18日(月)は休館日

遺作展開催によせて

妻 小林 淑子

故・小林 貢はノリタケカンパニー入社当初、陶磁器のデザインに携わっていましたが、1965年にニューヨークに出向。

帰国後の1967年、厚木工場のガラス担当のデザイナーに任命され、東京・名古屋を結ぶ線上の厚木市にガラス食器を作る工場を新設し、多くのガラス職人を集めました。

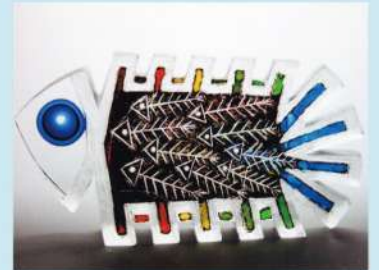
ガラスと出会った貢は、ガラスの輝き、美しさ、どんな形にもなる自由さ等々・・・今まで扱っていた金属や陶磁器などとは、比べられないほどの魅力を感じたようでした。この頃、調合してできた青色のガラスは「小林の青」といわれるほどお気に入りの色となり、多くの作品を生み出しました。

ガラス工芸発展のため協会設立にも奔走し、1972年に日本ガラス工芸協会を発足させました。またこの年にノリタケを退社。ガラス工芸作家として、デパートなどで作品を発表しました。

上越ガラスで多彩な色物にも挑戦し、自宅の窯で小品作りもしました。やがて仲間の職人が高齢のためなくなり、一人でもできるキャスト技法による「オトト」などを作るようになりました。卒寿を過ぎても思いついたアイデアをスケッチしていました。振り返ってみると、好きなことに挑戦し続けた91年間だったと思います。支えていただいた全ての方々に感謝いたします。



『狐のコンポジション』(1997)



『オトトの記録』(2012)



『青の壺』(1977)



『帽子の人』(1980頃)



『古都の香』(1993)



『花ふぶき』(1998)



『神の嶺』(1999)



『望郷』(2000)

【小林 貢(みつぎ) 略歴】

- 1932年 愛知県碧海郡知立町(現知立市西町)生まれ
- 1957年 東京藝術大学美術学部工芸科鍍金専攻卒業
日本陶器株式会社(現ノリタケカンパニーリミテッド)入社
- 1958年 日展に鍍金にて初入選
- 1965年 ノリタケカンパニー(ニューヨーク)に出向(1967年1月まで)
- 1967年 ガラス製品のデザイン担当となる
ガラス作品「光容」で日展入選(以後ガラスにて出品)
- 1973年 日本現代工芸美術展にて現代工芸賞受賞
- 1978年 '78日本のガラス展出品(以後毎回)
近代日本の工芸展(東京国立近代美術館)に招待出品
- 1980年 日本現代工芸美術展にて東京都知事賞受賞
- 1982年 世界現代ガラス展(北海道立近代美術館)に指名出品
- 1985年 日本ガラス工芸協会理事長に就任(1987年まで)
日本の現代ガラス展(ドイツ・カールスルーエ美術館)に招待出品
ノリタケカンパニーリミテッド退社
- 1986年 東京高島屋・名古屋丸栄等にて個展(以後毎年)
- 1987年 自宅にガラス炉を築く 画廊じんがら(知立)にて個展(以後毎年)
'90現代ガラスの造形展(箱根彫刻の森美術館)に出品
- 1991年 国際現代ガラスアート展(フランス・ビオ)にて金メダル受賞
ガラスジャパン展(ニューヨーク・ヘラーギャラリー)に出品
- 1993年 日展にて特選受賞/愛知教育大学非常勤講師
- 1996年 金沢卯辰山工芸工房講師('01まで)
- 2001年 神奈川文化賞未来賞記念品制作('08まで) 知立文化賞受賞
- 2003年 開館3周年記念展「郷土が生んだ美術家たち」(知立市文化会館)
- 2005年 '05日本のガラス展にて藤田喬平賞受賞 小林貢展(ハラミタミュージアム)
- 2008年 傘寿記念第13回小林貢ガラス作品展(日本橋高島屋)
- 2014年 入会地ギャラリー特別展小林貢ガラス造形展(知立市文化会館)
- 2016年 第20回小林貢ガラス作品展(名古屋丸栄)
- 2024年 逝去
日本ガラス工芸協会功労会員

【関連イベント】

8/17 10:00～ 2F展示会場にて

オープニング・ギャラリートーク

小林義和(甥) & 小林淑子(貢夫人)

地域にねがすしたしみとにぎわいの会館

パティオ池鯉鮒 (知立市文化会館)

[TEL] 0566-83-8100

[E-mail] patio@patio-chiryu.com [FAX] 0566-83-8110

[HP] <https://patio-chiryu.com>

愛知県知立市上重原町間瀬口 116 番地



- 名鉄名古屋本線「知立駅」より徒歩20分、タクシーで約10分
- 「知立駅」北口より市ミニバスで約10分
- 国道23号線知立バイパス「上重原I.C.」より車で約5分
- JR東海道新幹線「三河安城駅」よりタクシーで約15分